

グルーミング概論・実習 II

(授業概要)

チャンプ犬のグルーミングの意義を理解し、グルーミング技術及び保定技術の向上を目指す。

1人1頭完璧にグルーミングをこなせるようになる。

中型・大型犬種のグルーミング、部分カットの技術を学ぶ。

科	動物看護師学科	教員	神坂 美紀
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年次	年間単位数	36×5時間

目標

1学期

1日で1人1頭グルーミングをこなす。

チワワ→90分、パピヨン・ダックス→105分でベーシックが行えるようにする。

時間を意識しながら犬に負担がかからない保定技術を習得する。

2学期

ベーシックマスターライセンスの取得を目指す。

全体で時間を計り各自で時間配分を意識し実習を行う。

授業計画

1学期

- 1回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 2回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 3回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 4回 グルーミング実習 (2～3人で1頭)
- 5回 グルーミング実習 (2人で1頭)
- 6回 グルーミング実習 (2人で1頭)
- 7回 グルーミング実習 (2人で1頭)
- 8回 グルーミング実習 (2人で1頭)
- 9回 モデルグルーミング (お尻カット、飛節・手根球下カット)
- 10回 グルーミング実習 (2人で1頭)
- 11回 グルーミング実習 (2人で1頭)
- 12回 グルーミング実習 (2人で1頭)
- 13回 グルーミング実習 (2人で1頭)
- 14回 グルーミング実習 (2人で1頭)

2学期

- 15回 グルーミング実習 (2人で1頭)
- 16回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 17回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 18回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 19回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 20回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 21回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 22回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 23回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 24回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 25回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 26回 グルーミング実習・ライセンス試験 (2回に分けて行う)
- 27回 グルーミング実習・ライセンス試験 (2回に分けて行う)
- 28回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 29回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 30回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 31回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 32回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 33回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 34回 グルーミング実習 (1人で1頭)
- 36回 グルーミング実習 (1人で1頭)

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

ブリーダー犬、一般犬を用いての実技実習

きょうざい
教材

グルーミングマニュアル

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

なし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

ペットショップにてトリマーとして勤務

人と動物の関係学

(授業概要)

人と動物の関係について、その歴史と現在の状況について学ぶ。動物と暮らすことの恩恵、適切に関わるための知識（人と動物の福祉、動物介在介入、虐待等）についての理解を深め、動物看護師として社会の人々を支援できる力を育てる。

科	動物看護師学科	教員	中野 あや
コース	動物看護師コース	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	36

目標

1 学期

人と動物の関わり方の歴史と現在の状況について学び、ペットが人に与える影響について理解する。日本と欧米の動物の在り方について、その違いを説明できるようになる。

2 学期

動物介在介入について理解し、動物福祉の観点から活動を評価できるようになる。人と動物の福祉の観点について学び、適正飼育や虐待についての知識を深める。

授業計画

前期

- 1回 人と動物の関係学：ガイダンス
- 2回 なぜペットを飼うのか（4章－1）
- 3回 ペットの歴史と現状（4章－2）
- 4回 5/12 休講（課題）
- 5回 人と動物の関係の歴史（1章－1）
- 6回 動物と日本の文化①（1章－2）
- 7回 動物と日本の文化②（1章－2）
- 8回 日本と西洋の動物との関わり方の比較（1章－3）
- 9回 現代の動物の使用状況（2章－1）
- 10回 人の健康への動物の効果（2章－2）
- 11回 前期試験
- 12回 前期試験返却、解答
- 13回 動物介在活動の定義と歴史①（3章－1）
- 14回 学校飼育動物の現状（3章－3）

後期

- 15回 9/1 休講（課題）

- 16回 動物介在行動を実施するために①（3章—2）
- 17回 動物介在行動を実施するために②（3章—2）
- 18回 動物虐待の定義と背景（5章—1）
- 19回 動物の役割（使役場面、高齢者、子供）と虐待（4章—5）
- 20回 学校飼育動物の目的と実際（3章—3）
- 21回 ペットと幸せに暮らすために（4章—3）
- 22回 エキスポに参加する動物たちについて考える（計画）
- 23回 インターンシップ休講
- 24回 インターンシップ休講
- 25回 エキスポに参加した動物たちについて考える（結果）
- 26回 ペットの現状について復習（4章-1,2）
- 27回 ペットへの愛着と依存（4章—4）
- 28回 ペットロス（4章—5）
- 29回 動物虐待の対処と法規制（5章—2,3）
- 30回 多頭飼育問題、高齢化による飼育困難（5章—4,6）
- 31回 ベテリナリーソーシャルワーク（5章—7）
- 32回 後期の復習
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験返却、解答
- 35回 人と動物の関係学：総括
- 36回 課題

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義

きょうざい
教材

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻、資料動画

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 80%、じゅぎょうたいど 20%
期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

参考図書を紹介

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

公衆衛生学 II

(授業概要)

基本的には公衆衛生学 I の続きとなる。食品衛生の後半と環境衛生及び動物愛護、院内衛生に関する基本処置などについて学習する。

科	動物看護師学科	教員	水澤 栄雄
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年次	年間単位時間	36

目標

1 学期

公衆衛生学 I の続きとなる食品衛生の後半と環境衛生を学ぶ。どちらも最近ことに世界中で注目されている項目であるため、国家試験においても重視される可能性が高い。知っておくべき基本部分を、確実に習得しておく必要がある。

2 学期

環境問題に絡めて、今日の社会における動物に関わる諸問題について学習する。また、病院内衛生に関して、実技面からアプローチしていく。

授業計画

- 1回 食中毒 (2)
- 2回 食中毒 (3)
- 3回 食中毒 (4)
- 4回 食品衛生に関する諸問題 (1) (食物性アレルギー、動物性食品の衛生 1)
- 5回 食品衛生に関わる諸問題 (2) (動物性食品の衛生 2, 食品の保存)
- 6回 食品衛生に関わる諸問題 (3) (食品の安全性 1)
- 7回 食品衛生に関わる諸問題 (4) (食品の安全性 2)
- 8回 環境衛生とは?、今日の環境問題 (1)
- 9回 今日の環境問題 (2)
- 10回 今日の環境問題 (3)
- 11回 前期試験
- 12回 前期試験返却・解答
- 13回 水の衛生 (1)
- 14回 水の衛生 (2)
- 15回 生活環境問題 (1)
- 16回 生活環境問題 (2)
- 17回 廃棄物問題 (1)

- 18回 廃棄物問題（2）
- 19回 衛生動物
- 20回 外来種問題
- 21回 絶滅危惧種とレッドリスト
- 22回 生物多様性の保全
- 23回 鳥獣被害の現状と対策
- 24回 動物検疫（1）
- 25回 動物検疫（2）
- 26回
- 27回
- 28回
- 29回 } 予備日（または、試験問題対策講義）
- 30回 }
- 31回 }
- 32回 }
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験返却・解答
- 35回 予備日
- 36回 予備日

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

自作のテキストによる講義。

きょうざい
教材

特になし。学校推薦の参考書程度。

ひょうか ほうほう
評価の方法

しまつしけん 80%、じゅぎょうたいど 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

授業だけでは時間の制約から十分ではないので、参考書や過去問などを用いて復習を充実させる。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

獣医師会の立場から行政と共働で、食中毒と環境衛生問題に長く関わった実績を持つ。

動物医療院内コミュニケーション I

(授業概要)

動物業界に適した思いやりを基本とし、院内コミュニケーション、電話対応、受付業務を身に付け、様々な場面において対応できる技術を身につける

科	動物看護師学科	教員	田中
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	36

目標

1 学期

状況に応じた会話、行動、飼い主対応ができる

日常の健康管理に関わる飼い主教育について学ぶ

2 学期

日常の健康管理に関わる飼い主教育について学ぶ

院内コミュニケーション、電話対応、受付業務を正確に対応できる

授業計画

前期

- 1回 授業の説明、自己紹介
- 2回 クライアントエデュケーション
- 3回 接遇とホスピタリティ
- 4回 マナーについて
- 5回 敬語
- 6回 フィラリア予防
- 7回 ノミダニ予防
- 8回 実践
- 9回 狂犬病予防接種
- 10回 混合ワクチン (犬)
- 11回 前期復習
- 12回 前期試験
- 13回 混合ワクチン (犬)
- 14回 混合ワクチン (犬)
- 15回 混合ワクチン (猫)

後期

- 16回 実践
- 17回 不妊、去勢手術①
- 18回 不妊、去勢手術②
- 19回 減量指導①
- 20回 減量指導②
- 21回 実践
- 22回 デンタルケア①
- 23回 デンタルケア②
- 24回 実践
- 25回 受付業務①
- 26回 看護ゼミ一斉実習
- 27回 看護ゼミ一斉実習
- 28回 受付業務②
- 29回 電話対応
- 30回 実践
- 31回 飼い主様向けパンフレット作り①
- 32回 飼い主様向けパンフレット作り②
- 33回 飼い主様向けパンフレット作り③
- 34回 後期復習
- 35回 後期試験
- 36回 試験返却、解説

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、グループワーク

きょうざい
教材

プリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい 授業外での学習方法

実習先での対応の仕方を記録し、まとめる

じつむけいけん 実務経験と じゅぎょうかもく 授業科目の かんけい 関係

あり

動物外科看護学

(授業概要、目的)

動物病院の手術時、もしくは外科分野において、動物看護師の役割を理解し、必要な知識、技術を習得し、現場で滞りなく、動けるようにする。

科	動物看護師学科	教員	西野 貴行
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	36 × 4時間

目標

1 学期

手術チームでの動物看護師の役割と準備、術前準備、麻酔、鎮静処置、術中補助・術後管理について理解し、現場で動けるようになる。

2 学期

縫合材料と縫合法、外科器具、創傷管理と包帯法、救急救命法について理解し、現場で動けるようになる。

授業計画

- 1回 手術チームにおける動物看護師の役割、手術室に入る。
- 2回 手指の消毒法
- 3回 手の拭き方
- 4回 ガウンとグローブの装着法
- 5回 術前検査と術前手続き、手術準備室と手術室の準備
- 6回 動物の術前準備、麻酔の準備
- 7回 手術時のポジショニング、消毒の準備
- 8回 術野の消毒法、ドレープの装着
- 9回 麻酔あるいは鎮静処置時における動物看護師の役割、適応とリスク、特有の問診
- 10回 麻酔あるいは鎮静処置前に実施される検査、注射麻酔・鎮静に関わる手技
- 11回 吸入麻酔に関わる手技、導入時のリスクと対処、麻酔監視項目
- 12回 麻酔記録の作成法
- 13回 術中、術直後、術後動物看護の役割と必要な動物看護援助
- 14回 縫合材と手術器具
- 15回 直接補助と間接補助を行う動物看護師
- 16回 直接補助の業務、間接補助の業務

- 17回 縫合糸の分類、特徴
- 18回 縫合糸のサイズ、一般的な縫合糸の種類と特徴
- 19回 縫合糸の包装、縫合糸の代替品縫合糸の選択基準
- 20回 縫合針、一般的な縫合法
- 21回 一般的な手術器具と使用法、手術器具セット
- 22回 成形外科器具とその使用法、歯科器具の名称と使用法
- 23回 手術器具の手入れ方法とその維持管理、滅菌準備
- 24回 手術器具の滅菌、代表的な医療機器
- 25回 創傷の分類
- 26回 手術後の創傷管理
- 27回 ドレッシング法実施時の創傷管理
- 28回 包帯法、褥瘡の予防
- 29回 生命兆候のアセスメント
- 30回 動物の呼吸を楽にする姿勢
- 31回 循環管理
- 32回 保温
- 33回 止血法
- 34回 気管内挿管
- 35回 心肺蘇生処置
- 36回 その他の救急救命処置に関わる状態

授業の方法

2コマ座学、2コマ実習の予定です。適宜グループワーク、手術を入れる。

教材

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻

評価の方法

期末試験50%、授業態度50%

授業外での学習方法

レポート

実務経験と授業科目の関係

あり

動物感染症学Ⅰ

(授業概要)

伴侶動物の感染症のみならず、多様な動物における重要な感染症まで広く理解し、その対応に付き認識を十分に深める。また、感染症に対し、正しい知識に基づき適切な対応が出来るように、理解と技術を身に付ける。

か 科	動物看護師学科	きょういん 教員	水澤 栄雄
コース	動物看護師ゼミ	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	2年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	72

目標

1 学期

感染症学を学ぶ目的と修学領域、各種病原体の解説、微生物検査法など感染症学の総論部分について十分に学習し、感染症学を学ぶ意義を理解する。

2 学期

各分野の代表的感染症について、その特徴や診断法、治療法などを深く学習する。臨床現場で大きな位置を占める感染症に関する基本的知識を植え付ける。

授業計画

前期

- 1回 序論：感染症とは？
- 2回 細菌学総論（1）
- 3回 細菌学総論（2）
- 4回 ウィルス学総論（1）
- 5回 ウィルス学総論（2）
- 6回 真菌学総論、プリオン総論
- 7回 バイオ・セーフティ、消毒と滅菌（1）
- 8回 消毒と滅菌（2）
- 9回 各種微生物検査法（1）
- 10回 各種微生物検査法（2）
- 11回 前期試験
- 12回 前期試験返却・解答
- 13回 免疫（1）
- 14回 免疫（2）

後期

- 15回 犬と猫の感染症（1）
- 16回 犬と猫の感染症（2）

- 17回 犬と猫の感染症（3）
- 18回 犬と猫の感染症（4）
- 19回 産業動物の感染症（1）
- 20回 産業動物の感染症（2）
- 21回 産業動物の感染症（3）
- 22回 その他の感染症（1）
- 23回 その他の感染症（2）
- 24回 寄生虫学総論
- 25回 原虫類（1）
- 26回 原虫類（2）
- 27回 線虫類（1）
- 28回 線虫類（2）
- 29回 吸虫類（1）
- 30回 吸虫類（2）
- 31回 条虫類（1）
- 32回 条虫類（2）
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験返却・解答
- 35回 衛生動物
- 36回 授業振り返り

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

自作のテキストによる講義。

きょうざい
教材

特になし。学校推薦の参考書程度。

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 80%、じゅぎょうたいど 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

授業だけでは時間の制約から十分ではないので、参考書や過去問などを用いて復習を充実させる。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

動物疾病看護学 A

(授業概要)

愛玩動物看護師試験の出題範囲を中心として、動物看護士として直面する疾病について学ぶ

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	36×3時間

目標

1 学期

動物看護の基礎知識、動物看護過程、呼吸器疾患、循環器疾患についての、機序や治療を学習し、獣医師をサポートする動物看護師としての役割を理解する。

2 学期

消化器疾患、内分泌疾患、神経・整形外科疾患についての、機序や治療を学習し、獣医師をサポートする動物看護師としての役割を理解する。さらに、事例に基づく動物看護過程の展開について学び、実践時の基本的能力を養う。

授業計画

- 1回 動物看護臨床学総論・基礎知識
- 2回 動物看護臨床学総論・動物看護過程
- 3回 動物看護臨床学総論・健康期
- 4回 動物看護臨床学総論・急性期・回復期
- 5回 動物看護臨床学総論・慢性期・終末期
- 6回 呼吸器疾患の動物看護Ⅰ・呼吸器疾患とは・症状
- 7回 呼吸器疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
- 8回 呼吸器疾患の動物看護Ⅲ・肺炎・肺水腫・胸水・犬伝染性気管支炎・猫の上部起動疾患
- 9回 呼吸器疾患の動物看護Ⅳ・気管虚脱・短頭種気道症候群・猫喘息・肺腫瘍
- 10回 循環器疾患の動物看護Ⅰ・循環器疾患とは・症状
- 11回 循環器疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
- 12回 前期復習
- 13回 前期試験
- 14回 前期試験返し・解説

- 13回 循環器疾患の動物看護Ⅲ・うっ血性心不全・僧帽弁閉鎖不全症・動脈管開存・寝室中隔欠損
- 14回 循環器疾患の動物看護Ⅳ・犬糸状虫症・拡張型心筋症・肥大型心筋症・心室性不整脈
- 15回 消化器疾患の動物看護Ⅰ・消化器疾患とは・症状
- 16回 消化器疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
- 17回 消化器疾患の動物看護Ⅲ・猫の歯肉口内炎・歯周病・巨大食道症・胃炎・胃拡張捻転症候群
- 18回 消化器疾患の動物看護Ⅳ・パルボウイルス感染症・炎症性腸疾患・腸リンパ管拡張症・肝炎

- 19回 内分泌疾患の動物看護Ⅰ・内分泌疾患とは・症状
- 20回 内分泌疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
- 21回 内分泌疾患の動物看護Ⅲ・糖尿病・低血糖症・甲状腺機能亢進症・甲状腺機能低下症
- 22回 内分泌疾患の動物看護Ⅳ・副腎皮質機能亢進症・副腎皮質機能低下症・高カルシウム血症
- 23回 神経・整形外科疾患の動物看護Ⅰ・神経・整形外科疾患とは・症状
- 24回 神経・整形外科疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
- 25回 神経・整形外科疾患の動物看護Ⅲ・水頭症・特発性てんかん・ウォブラー症候群
- 26回 V2 一斉インターンシップ実習
- 27回 V2 一斉インターンシップ実習
- 28回 神経・整形外科疾患の動物看護Ⅳ・馬尾症候群・神経系腫瘍・膝蓋骨脱臼・前十字靭帯断裂
- 29回 事例に基づく動物看護過程の展開Ⅰ・右後肢断脚術を実施後急性期の動物看護
- 30回 事例に基づく動物看護過程の展開Ⅱ・前十字靭帯断裂犬の術後回復期の動物看護
- 31回 事例に基づく動物看護過程の展開Ⅲ・糖尿病に罹患した犬の慢性期の動物看護
- 32回 動物看護統一認定試験対策Ⅰ
- 33回 動物看護統一認定試験対策Ⅰ
- 34回 後期復習
- 35回 後期試験
- 36回 後期試験返し・解答

授業の方法

講義、問題演習

教材

インターズー「認定動物看護師コアカリキュラム 2019 準拠 臨床動物看護学 3 動物臨床看護学各論」
イラストでみる犬の病気、イラストでみる猫の病気

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

動物看護学で得た机上の知識を、ATH ゼミで実務されている先輩看護師と照らし合わせて、勉学にフードバックする。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

動物疾病看護学 B

(授業概要)

皮膚疾患、免疫介在性疾患、眼疾患、生殖器系疾患、泌尿器系疾患、および腫瘍性疾患の基本的な病態生理の知識を学び、治療に関する必要な処置を理解し、チーム医療の一員として適切な看護を提供する方法を修得する。

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	72

目標

1 学期

皮膚疾患、造血器・免疫介在性疾患についての、機序や治療を学習し、獣医師をサポートする動物看護師としての役割を理解する。

2 学期

眼疾患、生殖器系疾患、泌尿器系疾患、腫瘍性疾患についての、機序や治療を学習し、獣医師をサポートする動物看護師としての役割を理解する。さらに、統一動物看護認定試験対策も実施する。

授業計画

- 1回 ガイダンス・感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患とは
- 2回 皮膚疾患：膿皮症、脂漏症、アトピー性皮膚炎、天疱瘡
- 3回 皮膚疾患：ノミアアレルギー性皮膚炎、好酸球性肉芽腫、食物アレルギー
- 4回 皮膚疾患：外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症
- 5回 皮膚疾患：毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ
- 6回 造血器・免疫介在性疾患：バベシア、腎性貧血、血友病
- 7回 造血器・免疫介在性疾患：FIP、FeLV、FIV
- 8回 造血器・免疫介在性疾患：免疫介在性溶血性貧血、ネギ中毒、リンパ腫
- 9回 造血器・免疫介在性疾患：白血病、肥満細胞腫
- 10回 眼疾患：結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎
- 11回 眼疾患：角膜潰瘍、ブドウ膜炎 緑内障、白内障、核硬化症
- 12回 前期復習
- 13回 前期試験
- 14回 前期試験返し・解説
- 15回 眼疾患：流涙症、チェリーアイ 異所性睫毛
- 16回 生殖器疾患：潜在精巣、前立腺炎 前立腺肥大
- 17回 生殖器疾患：子宮蓄膿症、偽妊娠、異常分娩、膣脱、犬ブルセラ症、乳腺炎、乳腺腫瘍

- 18回 泌尿器系疾患：急性腎障害、慢性腎臓病、腎盂腎炎
- 19回 泌尿器系疾患：蛋白喪失性腎炎、尿路感染症
- 20回 泌尿器系疾患：尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患
- 21回 泌尿器系疾患：尿道閉塞症、レプトスピラ症、排尿障害
- 22回 腫瘍疾患とは
- 23回 担がん動物の看護Ⅰ：がん診断の基礎知識
- 24回 担がん動物の看護Ⅱ：主要疾患に対する治療
- 25回 担がん動物の看護Ⅲ：栄養管理・疼痛管理
- 26回 V2 一斉インターンシップ実習
- 27回 V2 一斉インターンシップ実習
- 28回 緊急疾患：交通事故、感電、熱傷、熱中症
- 29回 緊急疾患：中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー
- 30回 腫瘍・緊急疾患のまとめ
- 31回 動物看護統一認定試験対策Ⅰ
- 32回 動物看護統一認定試験対策Ⅱ
- 33回 動物看護統一認定試験対策Ⅲ
- 34回 後期復習
- 35回 後期試験
- 36回 後期試験返し・解答

授業の方法

講義、問題演習

教材

インターズー「認定動物看護師コアカリキュラム 2019 準拠 臨床動物看護学 3 動物臨床看護学各論」
イラストでみる犬の病気、イラストでみる猫の病気

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

動物看護学で得た机上の知識を、ATH ゼミで実務されている先輩看護師と照らし合わせて、勉学にフードバックする。

実務経験と授業科目の関係

あり

動物看護学実習

(授業概要)

動物病院にて愛玩動物看護師として働く際に必要な、看護項目・基本的専門技術について学ぶ。

科	動物看護師学科	教員	梶 芙美子
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	72

目標

1 学期

臨床現場における身なり・意識の定着

正しい器具の取り扱い

2 学期

検査目的と検査手技の理解

看護動物の状態を理解し、必要な看護を判断できる

エマージェンシーの対応・心臓マッサージができる

授業計画

1 学期

1回 衛生管理・身だしなみ

2回 診察準備・身だしなみ

3回 身体検査1・保定（できれば実習犬・猫 6時間目）

4回 薬剤の取り扱い・投薬方法

5回 注射器・輸液の取り扱い

6回 採血1・留置・輸液準備

7回 身体検査2・採血2（できれば実習犬・猫 5時間目）血液検査

8回 インターン（仮）

9回 注射・輸液管理

10回 マイクロチップ

11回 復習

12回 試験

13回 返却・復習

2 学期

14回 顕微鏡の取り扱い確認・便検査

15回 尿検査

16回 皮膚検査・耳垢検査

- 17回 採尿実習・鏡検実習（できれば実習犬 5 時間目）
- 18回 心電図検査・エマージェンシー（心臓マッサージ） 1
- 19回 レントゲン検査・エマージェンシー（心臓マッサージ） 2
- 20回 超音波検査・エマージェンシー（心臓マッサージ） 3
- 21回 眼科検査・エマージェンシー（心臓マッサージ） 4
- 22回 神経学的検査・エマージェンシー（心臓マッサージ） 5
- 23回 滅菌
- 24回 手術準備・器具
- 25回 手術管理（麻酔）
- 26回 インターン（仮）
- 27回 入院看護 1
- 28回 入院看護 2
- 29回 復習
- 30回 後期試験
- 31回 返却・復習
- 32回 包帯法・グループワーク
- 33回 輸血前検査
- 34回 輸血管理
- 35回 入院看護 3
- 36回 グループワーク

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

座学・実習・グループワーク

きょうざい
教材

エドワードプレス・自作プリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度10%、出席率 10%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

テキストの予習・復習

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

臨床現場で実施している内容の反映・自身の体験を提供。

動物看護師ゼミ演習

(授業概要)

1 年生で学んだことの復習や鳥類等の小型動物に関する基礎知識の学習など、愛玩動物看護師国家試験へ向けた対策を行う。また、各種イベント等へ向けたホームルームや特別講義実施のための枠として活用する。

科	動物看護師学科	教員	橋本、材井、北川
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	36時間

目標

1 学期

国家試験へ向けた対策を進める。また、各種イベント等へ向けたホームルームの時間とする。

2 学期

国家試験へ向けた対策を進める。また、各種イベント等へ向けたホームルームの時間とする。

授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 HR
- 3回 HR
- 4回 エキゾチックアニマルの看護
- 5回 エキゾチックアニマルの看護/HR
- 6回 1年生範囲復習試験
- 7回 試験フィードバック
- 8回 エキゾチックアニマルの看護
- 9回 エキゾチックアニマルの看護/HR
- 10回 エキゾチックアニマルの看護
- 11回 試験
- 12回 試験返却
- 13回 HR
- 14回 前期振り返り
- 15回 インターン準備/資格試験対策
- 16回 インターン準備/ HR
- 17回 インターン準備/資格試験対策
- 18回 インターン準備/資格試験対策
- 19回 インターン準備/ HR

- 20回 インターン準備/資格試験対策
- 21回 インターン準備/ HR
- 22回 インターン準備/資格試験対策
- 23回 HR/資格試験対策 (小テスト)
- 24回 HR/資格試験対策 (小テスト・フィードバック)
- 25回 HR/資格試験対策 (小テスト・フィードバック)
- 26回 HR/資格試験対策 (小テスト・フィードバック)
- 27回 HR/資格試験対策 (小テスト・フィードバック)
- 28回 HR/資格試験対策 (小テスト・フィードバック)
- 29回 HR/資格試験対策 (小テスト・フィードバック)
- 30回 HR/資格試験対策 (小テスト・フィードバック)
- 31回 HR/資格試験対策 (小テスト・フィードバック)
- 32回 試験
- 33回 試験返却
- 34回 HR/資格試験対策 (小テスト・フィードバック)
- 35回 HR/資格試験対策 (小テスト・フィードバック)
- 36回 HR/資格試験対策 (小テスト・フィードバック)

授業の方法

座学、実習、グループワーク

教材

動物看護実習テキスト、ファームプレス、自作プリント

評価の方法

期末試験80%、出席率 20%

授業外での学習方法

特になし

実務経験と授業科目の関係

あり

動物解剖・生理学Ⅱ

(授業概要)

1年次の動物解剖生理学Ⅰをさらに発展させ、組織学分野の知識習得、さらには各系統の疾患をモデルに解剖学及び生理学の臨床的応用を検討する。

科	動物看護師学科	教員	水澤 栄雄
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	36

目標

1学期

神経系、感覚器、内分泌系について、「まとめ」と組織学的考察、疾病モデルによる形態と機能の解析を行う。

2学期

呼吸器、循環器、消化器、泌尿器、運動器、血液について、「まとめ」と組織学的考察、疾病モデルによる形態と機能の解析を行う。

授業計画

1学期

- 1回 神経系のまとめ
- 2回 神経系疾患(1)
- 3回 神経系疾患(2)
- 4回 感覚器のまとめ(眼)
- 5回 感覚器のまとめ(耳)
- 6回 眼科系疾患(1)
- 7回 眼科系疾患(2)
- 8回 耳の疾患
- 9回 内分泌系のまとめ
- 10回 内分泌系疾患(1)
- 11回 前期試験
- 12回 前期試験返却・解答
- 13回 内分泌系疾患(2)
- 14回 呼吸器系のまとめ

2学期

- 15回 呼吸器系疾患(1)
- 16回 呼吸器系疾患(2)
- 17回 循環器系のまとめ

- 18回 循環器系疾患（1）
- 19回 循環器系疾患（2）
- 20回 循環器系疾患（3）
- 21回 循環器系疾患（4）
- 22回 消化器系のまとめ
- 23回 消化器系疾患（1）
- 24回 消化器系疾患（2）
- 25回 泌尿器系のまとめ
- 26回 泌尿器系疾患（1）
- 27回 泌尿器系疾患（2）
- 28回 運動器・骨格系のまとめ
- 29回 運動器・骨格系疾患（1）
- 30回 運動器・骨格系疾患（2）
- 31回 血液のまとめ
- 32回 血液疾患（1）
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験返却・解答
- 35回 血液疾患（2）
- 36回 総復習

じゆぎょう ほうほう
授業の方法

自作のテキストによる講義。

きょうざい
教材

特になし。学校推薦の参考書程度。

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゆぎょうたいど 授業態度20%

じゆぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

授業だけでは時間の制約から十分ではないので、参考書や過去問などを用いて復習を充実させる。

じつむけいけん じゆぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

基礎健康管理学 II

(授業概要)

内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。

科	動物看護師学科	教員	田中
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	36

目標

1 学期

食中毒や応急処置などを学び、いざというときに対応できるようになる

2 学期

ペットロスや安楽死などを理解し、飼い主のサポートができるようになる

産業動物、実験動物、展示動物における役割、歴史、管理方法などを学んだうえで、各種ごとの福祉について理解する

授業計画

1 学期

1回 応急処置 1

2回 応急処置 2

3回 応急処置 3

4回 応急処置 4

5回 心肺蘇生 1

6回 心肺蘇生 2

7回 心肺蘇生 3

8回 中毒 1

9回 中毒 2

10回 中毒 3

11回 前期復習

11回 前期試験

12回 試験返却

13回 分娩 1

- 14回 分娩2
- 15回 妊娠

- 16回 出産1
- 17回 出産2
- 18回 助産
- 19回 ペットロス
- 20回 エンゼルケア
- 21回 グリーフケア1
- 22回 グリーフケア2
- 23回 安楽死
- 24回 投薬1
- 25回 投薬2
- 26回 看護ゼミ一斉実習
- 27回 看護ゼミ一斉実習
- 28回 輸液1
- 29回 輸液2
- 30回 輸血
- 31回 各動物における福祉1 産業動物
- 32回 各動物における福祉2 実験動物
- 33回 各動物における福祉3 展示動物
- 34回 復習
- 35回 後期試験
- 36回 試験返却

じゆぎょう ほうほう
授業の方法

座学、実習、グループワーク

きょうざい
教材

コンパニオンアニマルの健康管理学、自作プリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん
期末試験80%、出席率 20%

じゆぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

特になし

じつむけいけん じゆぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

動物病院にて身につけた、応急処置、救命処置をもとに体験談を提供していく。

検査学

(授業概要)

病院勤務においてはルーチンである臨床検査に関する知識と技術について学ぶ。検査はいわば診断治療の「切り口」であり、ここでまず正しい判断が為されなければ後の診療にも狂いが生じる。従って、知識面においても技術面においても十分な裁量が必要とされるため、その基本をまず着実に習得することが重要である。

か科	動物看護師学科	きょういん 教員	水澤 栄雄
コース	動物看護師ゼミ	きょういん じつむけいけん 教員の実務経験	○
たいしょうねんじ 対象年次	2年	ねんかんたんいじかん 年間単位時間	36

目標

1学期

血液検査に関する知識と技術について学習する。臨床現場において日常最も多く実施される検査であるため十分に時間を使って確実に習得する。

2学期

その他の臨床検査について学ぶと同時に、実際の症例データから各疾患の特徴や予後を診断する訓練を行う。

授業計画

1学期

- 1回 臨床検査の基礎（臨床検査とは？、検査値、検査機器について）
- 2回 血液検査（採血部位と採血方法、血漿・血清の分離法）（1）
- 3回 血液検査（採血部位と採血方法、血漿・血清の分離法）（2）
- 4回 血液検査（全血球検査について）
- 5回 血液検査（血液塗抹標本の作成・染色法と観察法）（1）
- 6回 血液検査（血液塗抹標本の作成・染色法と観察法）（2）
- 7回 血液検査（ヘマトクリット管による検査、凝固検査）
- 8回 血液検査（生化学検査1）
- 9回 血液検査（生化学検査2）
- 10回 血液検査（生化学検査3）
- 11回 前期試験
- 12回 前期試験返却・解答
- 13回 血液検査（生化学検査4）
- 14回 血液検査（血液ガス分析、免疫学的検査）

2学期

- 15回 尿検査（検体採取法、検体の取り扱い）
- 16回 尿検査（検査手順）

- 17回 尿検査（尿沈渣標本の解析）
- 18回 糞便検査（目的、採便方法、寄生虫検査）
- 19回 糞便検査（他の微生物検査、消化試験）
- 20回 細胞診検査
- 21回 病理組織検査（1）
- 22回 病理組織検査（2）
- 23回 遺伝子検査（1）
- 24回 遺伝子検査（2）
- 25回
- 26回
- 27回
- 28回
- 29回
- 30回
- 31回
- 32回
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験返却・解答
- 35回 予備日
- 36回 予備日

症例検討
（または予備日）

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

自作のテキストによる講義。

きょうざい
教材

特になし。学校推薦の参考書程度。

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 80%、じゅぎょうたいど 20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

授業だけでは時間の制約から十分ではないので、参考書や過去問などを用いて復習を充実させる。

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

比較動物学

(授業概要)

飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	36

目標

1 学期

産業動物の歴史・解剖・生理・飼養上の注意点、病気などを理解し説明できるようになる。

2 学期

実験動物の役割・歴史・飼養上の注意点、病気などを理解し説明できるようになる。

野生動物の現状を把握し、生物多様性を理解し、説明できるようになる。

動物園の役割を理解し、説明できるようになる。

授業計画

- 1回 牛についてⅠ（歴史・特性・品種）
- 2回 牛についてⅡ（解剖・生理・飼養管理）
- 3回 牛についてⅢ（病気・演習問題）
- 4回 馬についてⅠ（歴史・特性・品種）
- 5回 馬についてⅡ（解剖・生理・飼養管理）
- 6回 馬についてⅢ（解剖・生理・飼養管理）
- 7回 豚（歴史・特性・品種・飼養管理・病気）
- 8回 羊（歴史・特性・品種・飼養管理・病気）
- 9回 山羊（歴史・特性・品種・飼養管理・病気）
- 10回 前期復習
- 11回 前期試験
- 12回 前期試験返し・解答
- 13回 鶏Ⅰ（歴史・特性・品種・解剖・生理）
- 14回 鶏Ⅱ（飼養管理・病気）
- 15回 畜産業
- 16回 実験動物学総論

- 17回 実験動物の管理学Ⅰ（生体因子・遺伝子モニタリング）
- 18回 実験動物の管理学Ⅱ（物理化学的因子・栄養学的・微生物学的）
- 19回 実験動物の管理学Ⅲ（基本技術・注意点）
- 20回 代表的な実験動物マウス・ラット
- 21回 代表的な実験動物シリアンハムスター・チャイニーズハムスター・スナネズミ
- 22回 代表的な実験動物モルモット・ウサギ
- 23回 代表的な実験動物サル類
- 24回 V2 一斉インターンシップ実習
- 25回 V2 一斉インターンシップ実習
- 26回 疾患モデル動物Ⅰ（自然発症疾患）
- 27回 疾患モデル動物Ⅱ（トランスジェニック動物）
- 28回 動物実験の代替法
- 29回 野生動物Ⅰ（分類・生物多様性）
- 30回 野生動物Ⅱ（鳥獣害・絶滅危惧種）
- 31回 野生動物Ⅲ（外来種・野生動物の救護）
- 32回 後期復習
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験返し・解答
- 35回 展示動物Ⅰ（動物園の役割）
- 36回 展示動物Ⅱ（個体・群管理、行動管理）

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、演習問題

きょうざい
教材

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書（比較動物学）

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん じゅぎょうたいど
期末試験80%、授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

特になし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

産科繁殖学

(授業概要)

犬猫の繁殖に関わる形態機能を学び、妊娠・分娩、および新生子管理を習得する。特に、繁殖に関わる内分泌（ホルモン）の働き、および発情のメカニズムを理解するとともに、繁殖における遺伝学を学ぶ。

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	36

目標

1学期

犬・猫の繁殖器官、卵子および精子形成を理解する。

2学期

生殖機能調節に関わるホルモン、発情徴候と発情周期、妊娠と受精、遺伝子と器官発生、先天異常を理解する。

授業計画

- 1回 ガイダンス・生殖とその分類
- 2回 雄犬（猫）の繁殖器官
- 3回 雌犬（猫）の繁殖器官
- 4回 卵子形成・卵胞と黄体・排卵①
- 5回 卵子形成・卵胞と黄体・排卵②
- 6回 卵子形成・卵胞と黄体・排卵③
- 7回 精子形成①
- 8回 精子形成②
- 9回 生殖機能調節に関わるホルモン①
- 10回 前期復習
- 11回 前期試験
- 12回 前期試験返し・解答
- 13回 生殖機能調節に関わるホルモン②
- 14回 生殖機能調節に関わるホルモン③
- 15回 発情徴候と発情周期①
- 16回 発情徴候と発情周期②

- 17回 発情徴候と発情周期③
- 18回 妊娠と受精①
- 19回 妊娠と受精②
- 20回 妊娠と受精③
- 21回 分娩
- 22回 遺伝子と器官発生①
- 23回 遺伝子と器官発生②
- 24回 V2 一斉インターンシップ実習
- 25回 V2 一斉インターンシップ実習
- 26回 新生子の解剖生理学① 胎子循環
- 27回 新生子の解剖生理学② 新生児の生殖器
- 28回 新生子の先天性異常（奇形）①視診で発見される先天性疾患
- 29回 新生子の先天性異常（奇形）②成長につれて発見される先天性疾患 I
- 30回 新生子の先天性異常（奇形）③成長につれて発見される先天性疾患 II
- 31回 新生子の生理的機能① 体温・肺・消化・排便排尿
- 32回 後期復習
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験返し・解答
- 35回 新生子の生理的機能② 初乳・溶血
- 36回 総復習

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

講義、演習問題

きょうざい
教材

インターズー 基礎動物看護学 1 「動物繁殖学」、ファームプレス 動物看護コアテキスト 2 巻 動物のからだの構造と機能 第2版 「第11章 子どもをつくる」、EDUWARD press 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 巻 動物繁殖学

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度20%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

特になし

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

あり

病理学

(授業概要)

病気とは何かについて理解するとともに、各疾患の原因や成り立ち、経過を理解する。そして、動物の病気を動物の体の内側から理解し、適切な看護方針の立案に寄与できる動物看護師の育成を目指す。

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位数	36

目標

1 学期

生体反応と病気の成り立ち、生体の回復力、細胞や組織に生じる変化を学び、理解する。

2 学期

増殖と修復、循環障害、炎症、免疫、腫瘍、及び先天性疾患を学び、具体的な疾患の病理メカニズムを理解する。

授業計画

- 1回 ガイダンス・第1章 病理学とは
- 2回 第2章 生体反応と病気の成り立ち ①病気の原因
- 3回 第2章 生体反応と病気の成り立ち ②バイタルサイン
- 4回 第3章 生体の回復力 ①ホメオスタシス・神経系
- 5回 第3章 生体の回復力 ②ホメオスタシス・内分泌系
- 6回 第3章 生体の回復力 ③ホメオスタシス・免疫系
- 7回 第4章 細胞や組織に生じる変化 ①細胞傷害・細胞の変化
- 8回 第4章 細胞や組織に生じる変化 ②壊死とアポトーシス
- 9回 第4章 細胞や組織に生じる変化 ③萎縮と低形成
- 10回 前期復習
- 11回 前期試験
- 12回 前期試験返し・解答
- 13回 第5章 増殖と修復 ①細胞の増殖と組織の変化・化生
- 14回 第5章 増殖と修復 ②組織の修復と治癒
- 15回 第5章 増殖と修復 ③創傷治癒・骨折の治癒
- 16回 第6章 循環障害 ①血液循環とリンパ液循環・水腫
- 17回 第6章 循環障害 ②充血とうっ血・出血と止血
- 18回 第6章 循環障害 ③DIC・血栓・塞栓・虚血・梗塞・ショック

- 19回 第7章 炎症 ①炎症の原因と役割
- 20回 第7章 炎症 ②五大主徴
- 21回 第7章 炎症 ③炎症の経過と治癒
- 22回 第7章 炎症 ④炎症に関わる細胞とケミカルメディエーター
- 23回 第7章 炎症 ⑤急性炎症・慢性炎症
- 24回 V2 一斉インターンシップ実習
- 25回 V2 一斉インターンシップ実習
- 26回 第8章 免疫 ①免疫反応
- 27回 第8章 免疫 ②抗体産生
- 28回 第8章 免疫 ③免疫応答の異常（アレルギー）
- 29回 第9章 腫瘍 ①細胞の増殖分化とその異常
- 30回 第9章 腫瘍 ②腫瘍の定義と分類
- 31回 第9章 腫瘍 ③転移
- 32回 後期復習
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験返し・解答
- 35回 第10章 先天異常 ①遺伝的要因
- 36回 第10章 先天異常 ②環境要因

授業の方法

講義、問題演習

教材

ファームプレス「第3巻 動物看護コアテキスト 動物の疾病と予防および回復 第2版、動物病理学」、文栄堂「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠『病理学』 動物病理学総論 第3版」、EDUWARD press 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻 動物病理学

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

自分や家族が病気に罹患した経験を具体化し、病学的変化を客観的に理解するように努める。

実務経験と授業科目の関係

あり

臨床動物看護学

(授業概要)

チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解し、動物看護過程の展開により看護動物に応じた看護が行えるようになる。

科	生命科学科	教員	梶 芙美子
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位時間	72

目標

1 学期

動物看護過程の理解・カルテ作成ができる。

2 学期

症状に合わせた看護・動物種に合わせた看護ができる。

授業計画

1 学期

- 1回 チーム医療の理解・看護師の役割
- 2回 看護過程 1
- 3回 看護過程 2
- 4回 診療記録
- 5回 看護記録
- 6回 動物看護業務 1 (若齢期)
- 7回 動物看護業務 2 (老齢期)
- 8回 動物看護業務 3 (急性期)
- 9回 動物看護業務 4 (慢性期)
- 10回 動物看護業務 5 (ターミナル期)
- 11回 動物看護業務 6 (グリーフケア)
- 12回 試験
- 13回 返却・復習

2 学期

- 14回 代表的な徴候の理解と対処 1
- 15回 代表的な徴候の理解と対処 2
- 16回 症状別看護 1 (泌尿器)
- 17回 症状別看護 2 (循環器)

- 18回 症状別看護3（呼吸器）
- 19回 症状別看護4（消化器）
- 20回 症状別看護5（感覚器）
- 21回 症状別看護6（神経・整形）
- 22回 症状別看護7（内分泌）
- 23回 症状別看護8（皮膚）
- 24回 症状別看護9（生殖器）
- 25回 症状別看護10（救急疾患）
- 26回 緊急対応
- 27回 輸血
- 28回 エキゾチック看護1
- 29回 エキゾチック看護2
- 30回 後期試験
- 31回 返却・復習
- 32回 事例検証グループワーク
- 33回 症状別看護11（腫瘍）
- 34回 退院後の看護ケア
- 35回 看取りケア・スタッフグリーフケア
- 36回 事例検証グループワーク

じゅぎょう ほうほう
授業の方法

座学・実習・グループワーク

きょうざい
教材

エドワードプレス・自作プリント

ひょうか ほうほう
評価の方法

きまつしけん 期末試験80%、じゅぎょうたいど 授業態度10% 出席率 10%

じゅぎょうがい がくしゅうほうほう
授業外での学習方法

テキストの予習・復習

じつむけいけん じゅぎょうかもく かんけい
実務経験と授業科目の関係

臨床現場で見られる内容を反映・自身の体験を提供。

薬理学

(授業概要)

代表的な薬物の体内動態、作用機序、臨床応用および副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。さらに、薬物の用語・単位や投与量の計算方法を身に着ける。

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位数	72

目標

1 学期

薬理作用、薬物動態、投与方法を理解するとともに、薬物の投与量の計算方法を身に着ける。

2 学期

各種疾患に対する薬物の薬理作用を理解するとともに、各種薬剤の種類を把握する。

授業計画

- 1回 ガイダンス・薬理学とは
- 2回 薬物の取り扱い
- 3回 単位・用語・計算問題
- 4回 薬理学の基礎：薬理作用
- 5回 薬理学の基礎：薬物動態・投与方法
- 6回 薬理学の基礎：副作用
- 7回 神経系に作用する薬剤：麻酔薬
- 8回 神経系に作用する薬剤：鎮痛薬
- 9回 神経系に作用する薬剤：鎮静と抗けいれん薬
- 10回 前期復習
- 11回 前期試験
- 12回 前期試験返し・解答
- 13回 呼吸器系に作用する薬物
- 14回 循環器に作用する薬物：降圧薬
- 15回 循環器に作用する薬物：強心薬、泌尿器に作用する薬物
- 16回 消化器に作用する薬物：制吐薬と抗潰瘍薬
- 17回 消化器に作用する薬物：止瀉薬と瀉下薬

- 18回 消化器に作用する薬物：肝疾患治療薬
- 19回 オータコイドとは
- 20回 代謝・内分泌の薬物：糖尿病と甲状腺障害治療薬
- 21回 代謝・内分泌の薬物：ステロイドホルモン
- 22回 血液・免疫系に作用する薬物：抗貧血薬と止血薬
- 23回 V2 一斉インターンシップ実習
- 24回 V2 一斉インターンシップ実習
- 25回 血液・免疫系に作用する薬物：抗炎症薬
- 26回 血液・免疫系に作用する薬物：免疫抑制薬
- 27回 化学療法薬：消毒薬・殺虫薬
- 28回 化学療法薬：抗菌薬
- 29回 化学療法薬：抗真菌薬
- 30回 化学療法薬：抗蠕虫薬
- 31回 化学療法薬：抗原虫薬
- 32回 後期復習
- 33回 後期試験
- 34回 後期試験返し・解答
- 35回 化学療法薬：抗腫瘍薬
- 36回 総復習

授業の方法

講義、問題演習

教材

ファームプレス「第3巻 動物看護コアテキスト 動物の疾病と予防および回復 第2版、動物薬理学」、
 コンパニオン・アニマルのファースト・ステップ薬理学、EDUWARD press 愛玩動物看護師カリキュラム
 準拠教科書2巻 動物薬理学

評価の方法

期末試験80%、授業態度20%

授業外での学習方法

身近に接する医薬品の成分や薬理作用にアンテナを張り巡らし、注意深く確認する。

実務経験と授業科目の関係

あり